

二月二十四日

七時頃目ざめる。昨日は本当に良い休息であった。天の配慮だろう。休みをとらせていただいたという事はまだまだ、やる事があるぞという事でもあろう。仕事が休息である様な事が理想なのだろう、それは知っている。幻庵や開拓者の家を作っていた頃、二〇代の終わりから、三〇代にかけての状態は設計は義務ではなくって完全に遊びであった。七〇才を過ぎたら、あの状態に戻そうと思っているが、六〇代はどうするか、それが少々思案のしどころなのだ。

八時過、ホテルのTVをつける。BBC放送から、何かから何まで余りにも過剰な情報。アフリカでの戦争からアメリカ大統領選挙情報まで。世界で起きている事が詳細に伝えられている現実がある。その全てに反応できるわけもないし情報の全てが正確であるという保証もない。過剰な情報と私は中途半端な関係しか持てない状態だ。昨日の大雪でストップした列車で大半の乗客はケイタイをしまくっていた。しかし恐らく誰も正確な情報は得られなかったのである。私は車しようの車内放送だけが頼りだった。その車しようも又、ケイタイで彼の職場の友人のTV情報から我々に放送をしていたのである。私の個人的な情報では、なんて言っただけだからな。

あの状態と、今のTVを中心にした情報の現実とは同じなんだ。だからTV回路を一時断って、それこそ自己内情報の検索に入っ

ても、それ程に現実と遊離してしまうわけではない。情報による現実自体がすでに現実からバーチャルしてるわけだから。休息する必要は、とどのつまり、そんなヴァーチャルな情報の錯綜状態から身体を切り離すという事なのかも知れない。十時半まえ、悲しき熱帯Iはぼ読了。十一時後藤さんホテルに。帯広空港まで送っていただく。色々な話しをした。良い人に出会ったなと思つた。十三時三十五分JASで東京へ。十六時研究室に戻る。十八時過TOC・トモコーポ。社長と打合わせ。ヴェトナム料理を喰べて世田谷村に戻る。

二月二十五日

十三時大学院入試面接二次。一人だけとる。今年は予定通り、設計製図上位五名だけ。キツチり育てるつもり。早速、作業を割当てて、WORK。雑打合わせいくつか。十九時前、中川さん等来室。聖徳寺初代、二代目住職来室。厳しい打合わせ、二十二時まで。終了後スタツフと雑談。一息つく。二十三時半世田谷村戻る。

二月二十六日

八時起床。昨夜は深夜まで「行間の空間」磯崎新・福田和也読みふけていて、ポーツとしたまま起きた。前の畑の梅林の花も咲き誇っていて、鳥が沢山やってくる。十時野田邸現場。野田氏、森川と。十二時終了。只今十三時前向ヶ丘遊園から新宿に向っている。十五時四十五分の沖縄ANAで発つ。夕方遅く那覇着。慣れないモノレールに乗って旭橋駅下車。少し歩きオーシャンビューHOTELにチェックイン。チェックイン後、国建コンサドルでしばしの打合わせ。その後、夕食。

二月二十七日

朝八時前、国建スタッフにピックアップされ、尚弘子先生宅へ。尚先生は琉球王朝創立の尚家の御子孫で、いわば沖繩の顔である。非常にかつ達なお人柄で、流石と思わせるモノが随所に仄見えて楽しい。国建の車で大宜味村まで二時間弱御一緒した。

十時過大宜味村着。村長、助役にあいさつ。十一時、尚先生を座長にした委員会開催。検討委員会、ワーキング・グループ共の会議で総勢二〇名以上の大世帯である。古川真一氏と久し振りに再会。三月中にあと二回この委員会を開催することになるようにハードだ。ワークショップでの提案が委員会での議題になるようにしなければならぬ。次回委員会までに議論の対象となるような案件を作っておく必要がある。十二時半会は修了。弁当をいただいて、東参事とワークショップ開催の具体的な会場その他の打合わせ。太田、野村到着打ち合わせに加わる。公民館を主会場にする事に決定。象設計集団設計の建築である。宿泊施設も公民館内を主に、近くの空き部屋も使える事となり、参加者が一つにまとまれるようになってホッとした。少し村内を歩く。暑い位の天気で、民家の庭にハイビスカスの花咲き乱れ、沖繩らしい風景に接して心和む。

深夜世田谷村帰着。大宜味村の模型作りを急がなくては。